

国立公園満喫プロジェクト:世界水準の「ナショナルパーク」を実現するために

訪日外国人の国立公園利用者数 430万人(2015年)
→ 1000万人(2020年)に

「最大の魅力は自然そのもの」「高品質・高付加価値のインバウンド市場の創造」

ステップアッププログラムの策定

7月:世界水準の「ナショナルパーク」の候補として8公園を選定

阿寒 十和田八幡平 日光 伊勢志摩
大山隠岐 阿蘇くじゅう 霧島錦江湾 慶良間諸島

9月:地域協議会(※)において、具体的な取組を計画的、集中的に実施するステップアッププログラム策定に着手

(※)県、市町村、民間事業者等で構成

検討の加速化

- 各知事等に省幹部が直接要請
- アトキンソン氏、石井氏等有識者の現地評価

関係省庁との連携

- 関係省庁の施策メニューの提示(ビジットジャパン、街並み整備、空屋対策、Wi-Fi環境整備など)
- 関係省庁の出先機関が地域協議会に参加

年内:各公園毎にステップアッププログラム策定

- 国、県、市町村、民間事業者は、取組をそれぞれ実施。
- 進度に応じ、第2次補正予算の配分や29年度予算の配分を実施。
- 進捗状況に応じて、プログラムをグレードアップ。

8カ所の国立公園における成果を全国の国立公園に水平展開

世界水準の「ナショナルパーク」に向けたブレークスルー

質の高いホテル誘致

- 未開発の地域における公園利用計画上の宿舍の追加。
- 大手ディベロッパーに個別に要請。



ビジターセンター等公共施設の民間開放

- 大手カフェ事業者の要望を聴取。地元事業者も含め公募を検討。
- 施設の内装改修準備をしつつ、契約手続き等の規定を整備。



自然の質を向上させるための新たな仕組みの導入

- 原生的な自然地域でのガイド付きエコツアーや民間カフェ等の新サービスの提供を通じて、公園内の自然保全コストの一部を利用者に負担を求める仕組みについて、公園毎の特性に応じて導入。



景観の磨き上げと快適な利用環境の整備

- 景観条例に基づく景観規制の導入・拡大。表示デザインの統一。
- 廃屋撤去や休業ホテルの再生方策、電線地中化の検討。
- ユニバーサルデザインによる利用施設の整備の加速化。



こげ茶に統一した例(日光国立公園)

国内外への強力な情報発信

政府観光施策、地元DMO(※)、地元メディアとの連携

- Visit! Japan事業、地元DMO、地元メディア等との連携による海外広報の実施
- ※Destination Management/Marketing Organization

国立公園オフィシャルパートナープログラム

- ANA、JAL、JTB、KTCホールディングス、サントリー等の賛同企業との連携協力。様々な媒体・ツールによる情報発信を実施。

公式SNSの開設

- インスタグラム公式アカウントにおいて、現地パークレンジャーから、公園の感動を発信

